

バングラデシュにおける女性の人権の現状 Kazi Shamsul Alam さん (バングラデシュ)

1971年の独立以来、バングラデシュ人民共和国は女性の人権状況は堅実に改善されてきました。とはいえ、さまざまな政策が取られてきたにもかかわらず、まだ期待通りの水準には達していません。解放戦争期には、占領軍が攻撃の1つとして女性にレイプ、性的虐待や拷問を行ったため、女性の人権の状況は悪化しました。かつて女性が二流市民と見なされていた状況は大きく改善されましたが、基礎学力の欠如や社会的な資質の欠如が未解決のままです。そのような状況を改善すべく政府レベルで適切な対策が取られ、その成果が現われてきています。

レイプは、女性をひどく傷つける社会的不道徳行為です。人権組織 ODHIKER の調査によると、2000～2004年で、全国で合計4,195人の女性と子供がレイプの犠牲になりました。このうちの467人がレイプのあと殺害され、45人が自殺しました。全体の状況は良くありませんが、政府はこれに対し、犯人を収監し、法により罰しています。レイプは、社会全体が目をむけるべき凶悪犯罪のひとつです。無学なこと、また社会通念のせいで、レイプ事件の多くは届け出がなされません。男性中心の社会体制の中では、レイプにあった女性だとわかるとその後まともな人生を送ることができなくなるため、届け出をしないのです。

持参金も社会悪のひとつです。2000年以降の4年間で、持参金が原因で、約740人の女性が殺害され65人が自殺しました。283人が持参金に絡んで暴力を受けました。政府は、持参金にまつわる事件から女性を保護する法律を制定したにもかかわらず、日ごと事件は増加の一途をたどっています。大衆の意識向上プログラムが効果的だと思います。

劇物を投げつける暴力も、女性に対する最悪の犯罪の1つです。被害者の多くはそこで人生が終わったと感じることになります。年間約300件の劇物事件が起きており、1999年以降2,000人近い女性が被害にあったとする調査報告もあります。関連の法律が制定され裁判手続も迅速化されたにもかかわらず、法律が確実なものではないために、事件の数は驚くほど増えています。正義ある確実な統治なしでは成果は現れないでしょう。大衆の意識を高めることも、劇物暴力を根絶するためには必要です。

女性は、人口の約半分を占めているのに、国家的、社会的に平等の権利を受けることが許されませんでした。また、知識や教育がないため、自分自身の基本的権利に気づいておらず、社会差別の犠牲になってきました。こういったことすべては歴史的な過程から引き継がれています。女性の地位は低いものの、現在は改善の兆しも見られます。

経済分野での女性の貢献について正しく評価すれば、女性の経済参加が大きく改善され

たということがわかるでしょう。女性は小額融資や被服業界を通じ、経済活動に参加しています。比較調査をしてみれば、前向きな結果が出ることでしょう。今日、約2千3百万人の女性が経済力をもっており、それは、16才以上の人口の38%にあたります。その数は1981年には150万人で、たった5.7%を占めるにすぎませんでした。実に言及に値する増加があったということです。しかし、人口増加率、就学率と就職機会の向上を考慮しなければ、数値を読み間違えるおそれがあります。

全体の状況はいまだ満足のいくものではありませんが、期待のもてる状況です。徐々にではありますが、改善されています。国防軍への女性の参加は医療部門に限られていましたが、今では、陸・海・空軍の他部門の将校レベルにも女性がいるほどです。商業パイロットとして民間航空業界で働く女性もいます。銀行、医療、行政職、管理職、法曹界、その他の官庁の職にも進出しています。

人権が奪われる最大の原因は基礎学力の欠如であるため、政府は、教育分野において大胆な打開策を講じました。大学レベルまでの女子の教育費を完全に補助するものです。歴史的にさまざまなイデオロギーを経てきた社会を、たやすく克服することはできません。多くの政府、NGOが協力して、女性の人権確立のために活動しています。この流れが続けば、女性が人権差別に苦しむことはなくなると期待されます。

最後に、私たちが暮らすのは、西洋社会とは思想や哲学の面でも価値観でも異なる、東洋社会だということです。従って人権の状況も、そういった観点から判断されるべきだと考えています。